

寒冷紗を用いた湿地性カラーの高温対策技術の検証

1 普及活動のねらい

早尾花卉組合は14戸が湿地性カラーを栽培しており、11月から5月の間出荷している。湿地性カラー栽培は春の収穫終了後に被覆ビニルを除去し、井戸水を掛け流して株を冷却しているが、近年夏季高温により株枯れや生育抑制が発生し、特に年内の収量が減少している。そこで栽培施設に黒色寒冷紗を設置し、生育環境及び収量改善効果について検証した。

2 普及活動の成果

寒冷紗の設置により葉温が7.8℃低下した。株高が長くなり、欠株率も低下したことから生育改善効果が確認された（写真）。単位面積（3.3㎡）当たりの年内収量は、寒冷紗区が17本、慣行区が15本であり約13%増収した。

試験農家は試験結果に満足しており、今後も継続して実施予定である。また、早尾花卉組合の全体会で結果を報告したところ、寒冷紗設置による年内収量の増加に興味を持つ農家が多数現れ、次年度実施農家の増加が期待される。

3 普及活動の内容

試験農家と試験内容について打合せを行った。主力品種の「ウェディングマーチ」のは場で寒冷紗区と慣行区を設け、施設内環境及び生育、収量を調査した。

調査結果を取りまとめ試験農家と意見交換し、所属する組合の全体会で報告して情報を共有した。



写真 同日（8/21）における寒冷紗区（左）と慣行区（右）の様子

重点課題名	4 新技術導入・商品力強化による花き産地の育成
普及事項名	（2）栽培技術指針に基づいた栽培によるカラーの生産性向上